

# 市町村合併と周辺部の人口減

2003.2.3 補足 川上賢二

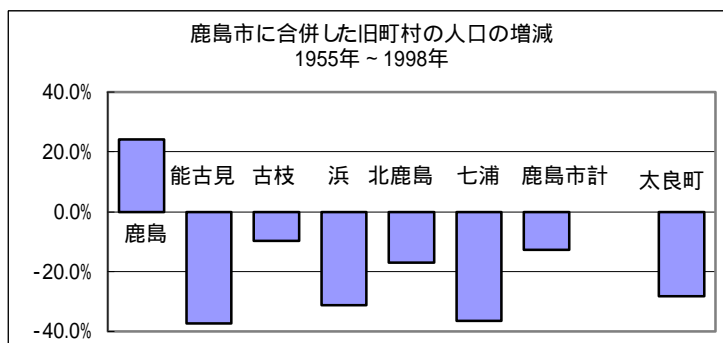
市町村合併によって、周辺部の人口は心配するのではないかと心配されています。そこで、佐賀県内で、これまでの合併で実際どうであったのか調べてみました。

(調査結果を順次加えていきます)

## 鹿島市の場合（1955年3月合併）

1955年3月に合併した鹿島市の場合、人口が増えたのは市役所がある旧鹿島町だけ、他の旧町村は軒並みに人口を減らしています。

地区名(旧町村)	1955年	1998年	1955年 98年 増減
鹿島	11,687	14,502	+24.1%
能古見	6,972	4,369	-37.3%
古枝	3,984	3,598	-9.7%
浜	5,430	3,736	-31.2%
北鹿島	5,002	4,147	-17.1%
七浦	6,326	4,019	-36.5%
鹿島市計	39,392	34,371	-12.7%
太良町	15,853	11,359	-28.3%



## 伊万里市の場合（1954 年合併）

旧町村	1954年	1999年	1954年 98年 増減
伊万里	22,727	24,917	+9.6%
黒川	4,727	3,586	-24.1%
波多津	4,870	2,991	-38.6%
南波多	4,550	3,039	-33.2%
大川	8,211	3,127	-61.9%
松浦	4,972	2,860	-42.5%
二里	6,430	6,109	-5.0%
東山代	10,310	6,192	-39.9%
山代	16,557	6,560	-60.4%
合計	83,354	59,391	-28.7%

伊万里の旧町村が仮に合併していなかったら、それぞれの旧町村はどの程度の財政規模をもっていたらだろうか？ 旧町村の1980年当時の人口と同程度の町村の2001年度の財政規模や交付税額をあてはめてみたのがつぎの表である。9町村合計の歳出額は389億円で現在の伊万里市の歳出総額よりも約170億円上回る。交付税額は142億円で現在の伊万里市よりも約66億円上まわる。膨大な金額である。

合併しないで、それぞれの町村を維持していた方が、この地域全体としてはるかに多額の交付税収入があり、それぞれの地域をうるおしていたのではないだろうか？

伊万里市の例は、合併が周辺部を疲弊させ、それが中心部にも波及して全体が疲弊して行く最悪の例を示している。

金額の単位は100万円

旧町村名	1980年の人口	町村名	2000年人口	2001年度歳出	2001年度交付税
伊万里	23,359	多久市	23,949	11,376	4,421
黒川	3,990	七山村	2,698	3,236	1,212
波多津	3,421	七山村	2,698	3,236	1,212
南波多	3,338	七山村	2,698	3,236	1,212
大川	3,683	七山村	2,698	3,236	1,212
松浦	3,466	七山村	2,698	3,236	1,212
二里	5,869	巖木町	5,815	3,946	1,191
東山代	5,796	巖木町	5,815	3,946	1,191
山代	8,321	大町町	8,503	3,429	1,367
合計	61,243			38,877	14,230
伊万里市				21,900	7,673
その差				16,977	6,557

以上